



下総町・大栄町

町を支える農業

こだわりのから生まれた特産品

大栄愛娘

大栄町は昔から農畜産業が盛んな地域で、特にサツマイモは昭和50年代以降、町を代表する作物となりました。

平成になると農産物の自由化、産地間競争が激しくなり、平成13年3月、甘しょ育成研究会を結成し、大栄産サツマイモのブランド化が始まりました。現在では生産額・作付面積は全国でもトップクラスです。

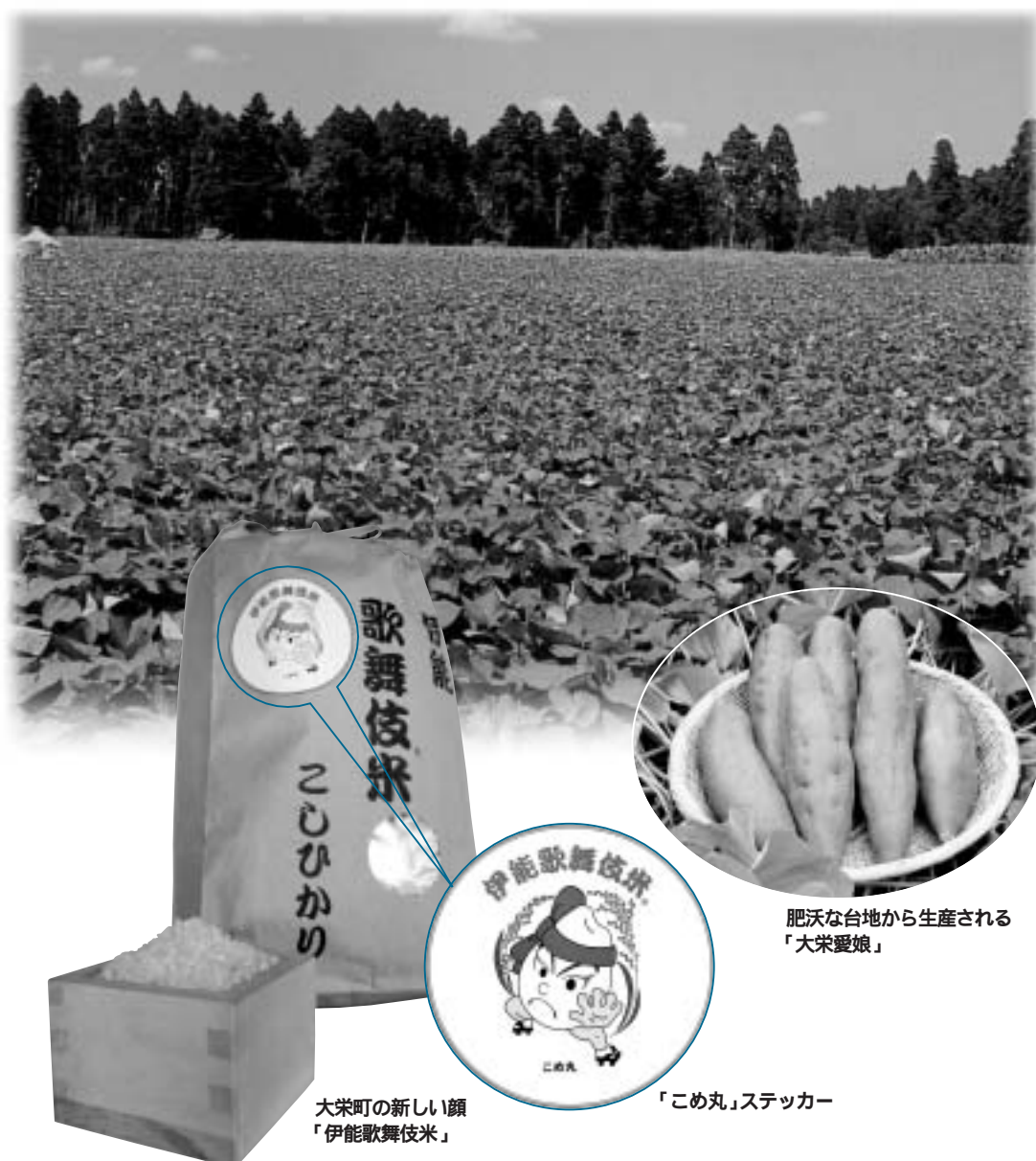
高系14号から選抜された優良苗をもとに土壌や栽培方法、食味にこだわって生まれたのが「大栄愛娘」。堆肥づくり、土づくり、貯蔵法など生産者の努力と熱意が実った新しいブランドです。収穫後一定期間貯蔵することでさらに甘みを増します。販売期間は12月から翌年の4月までの限定販売となっています。

伊能歌舞伎米

平成16年から生産販売を始めた大栄町の新しい顔となった「伊能歌舞伎米」。生産者の「この産地のブランド米にも負けないお米を作りたい」という思いが一つになって出来上がったお米です。

江戸時代から続く農村歌舞伎「伊能歌舞伎」の34年ぶりの復活公演の成功が糧となり、伊能歌舞伎米研究会が結成。一番のこだわりは食味で、コシヒカリ良食味米を生産するため、独自の統一栽培基準と認証基準を定めています。

町を挙げてブランド化の推進を図り、キャラクターと愛称を公募。67点の応募作品の中から、米粒が歌舞伎役者のように見得を切るデザインのキャラクターとその愛称「こめ丸」を採用しました。本年度は前年度の作付面積を倍増し、生産量約1,000俵を見込んでいます。



肥沃な台地から生産される「大栄愛娘」

「こめ丸」ステッカー

大栄町の新しい顔「伊能歌舞伎米」



レンコンの収穫作業は腰まで浸かる重労働

土壌改良に10年以上が
かったハス田



町おこしの主役

レンコン栽培

昔から早場米の産地として有名な下総町ですが約20年前、国の減反政策がきっかけで始められたのがレンコン栽培でした。転作率は25%。利根川を挟んだ向こう岸は、全国一のレンコン生産量を誇る茨城県。この老舗産地に追いつき追い越せを目標に、昭和62年、野馬込地区の4戸の農家でスタートしました。

しかし、初年度は強酸性土壌が災いして失敗。そこで、堆肥と石灰を混ぜる独自の方法で土壌改良に取り組み、レンコンの命である色の白さと栄養価の高さの両立に成功しました。

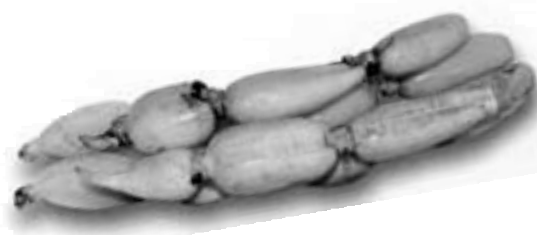
さらに、露地・ハウス・二年掘り・筋掘りなどの多彩な栽培方法を組み合わせ、年間を通して出荷できる態勢を整え、市場

「日本農業賞大賞」に輝く

の評価を高めていきました。

こうした努力が実り平成6年転作の優良事例として農林水産省農蚕園芸局長賞を受賞。これをきっかけに、蓮根づくり日本一を目指し、町や商工会もバックアップ。省力機械化の導入、レンコンを使ったアイデア商品の開発、氷詰めや泥付きなど市場を意識した販売戦略などを確立し、同12年に日本農業賞大賞（集団組織の部）を受賞しました。

現在、組合員数は10人、栽培規模は30haで年平均405tを出荷し、「下総古代蓮根」の商標登録を申請中です。



大栄町伊能歌舞伎公演のお知らせ

日時＝10月16日(日) 午前11時開演

場所＝県立房総のむら農村歌舞伎舞台

(雨天決行ですが、その場合は☎95-3333に問い合わせを)

日時＝11月20日(日) 10時30分開演(10時開場)

場所＝大栄町コミュニティプラザホール

● 演目＝仮名手本忠臣蔵「九段目山科閑居の場」、弁天娘女男白浪「稲瀬川の場」、本朝二十四孝「十種香の場」

- その他＝ の入館料
一般500円、高・大学生250円、中学生以下・65歳以上無料、☎95-3333



は10月29日(土) 午前8時から、コミュニティプラザでチケットを販売。1枚500円(弁当代込み・全席指定)で1人5枚まで。くわしくは大栄町生涯学習課(☎0478-73-7071)へ。